

もっと気軽に音楽に触れられるまちに

市長 市では「花と緑と音楽の広島づくり」を進めています。プロの音楽家の視点から、音楽とまちづくりはどのような関係にあるとお考えですか。

萩原 シャレオの「紙屋町まちかどピアノ」を取り上げたテレビ番組を拝見しました。音楽を楽しむ場として、音楽ホールやライブハウスなどいろいろありますが、そういう場所に行かなくても、普段皆さんが歩いているところにピアノがあり、誰でも演奏できて、習い始めたばかりの方から勉強されている方までさまざまな方が自由に街中でピアノを弾くことができる環境は、とてもすてきだなと思います。

市長 世界のさまざまな場所でストリートピアノが始まったのは、多くの方々に音楽に接してもらおうという方向を目指して行く中で、日常生活のちょっとした時間を割いて音楽との接点を持てるようにするのもいいだろうとの思いからですね。

萩原 はい。それが広島でもというのが本当にうれしくて。たまたまそこに居合わせたり、通りがかったりした方々が耳を傾けている様子を見て、日常のふとした瞬間に音楽が入ってくるというのは、ほんのひと時でも心が安らぐ瞬間だと思いますし、本当に素晴らしいと感じました。

市長 まさに私もそう受け止めています。利便性の高い都市であると同時に、国際平和文化都市ということもみんなが実感できるような、複合的な要素を備えたまちにできたらなという思いがあるんです。もっと気軽に音楽に触れることができ、腕自慢、腕試しの方が演奏活動ができるようなスペースを街角や公共の施設の中に設けられればと思っています。そんなふうな褒めていた

だけならもっと頑張ろうという気になりました(笑)。

演奏する人、聴く人、奏でる場所がそろうまち

市長 音楽が市民にとってもっと身近になっていくために、ヒントやアドバイスがありますか？



萩原 私の個人的な、昔からの夢でもあるんですけど、広島に音楽専用のホールができたらいいなと思っています。今もちろん、さまざまな施設がありますが、もっと素晴らしい音響でクラシックを聴くことができるホールがあればいいなと感じていたのが、海外からオーケストラが来広されたときや広島交響楽団の皆さんが普段演奏する場所として新しいホールができたら素晴らしいと思います。また、響きの良い小ホールもとても貴重なんです。子どもたちの発表会や、若い人たちがリサイタルやコンサートをするときに使えるホールがあるといいですね。広島出身で、サントリーホール(東京)などの音響設計をされている豊田泰久さんという素晴らしい方がいらっしゃるの、いつか豊田さんの手で、それが実現したらいいなと願っています。

市長 音楽は、演奏する人、聴く人、そして奏でる場所の3点がそろわないと成り立ちませんからね。ここまで復興して平和の風情を多くの方が感じられるまちになったので、いよいよ音楽を十分に愛でることができる施設があればいいなという思いは一緒です。広響は東京や大阪にも負けなく

いの力が付いてきて、多くの方が認める楽団になりました。課題は、演奏する方々がずっと広島で生活していけることなんです。聴くほうに関しては、まず日常で音楽に触れることができるまちにして音楽を聴く人を育てる。そうすることで、演奏活動が持続可能なお金の流れができる。その結果、演奏する方々がこの地域の中で生活できる状況になる。そうやって初めて施設、という順番だと思っています。象徴としてのシンフォニーホールができ、それができたときには素晴らしい演奏家が市内に大勢いて、ごく普通に聴いてみたいと思う方が大勢いる。そのような、お客様が来なくて閑古鳥が鳴くということが絶対ないような状況が理想です。中央公園の整備もそうした視点で進めていますし、演奏家、聴く人、場所とそこに立つシンフォニーホール、皆さんの協力でその三つの要素が同時並行でしっかりしたものとなるようなまちづくりをしたいと思っていますので、もうしばらく待っていてください。これは自分の思いなんですけどね。

もっともっと音楽のファンを増やしたい

市長 最後に、世界を舞台にご活躍されている萩原さんから広島で音楽活動をしている皆さんへのメッセージや今後の活動についてお話しいただけますか。

萩原 スポーツの分野では本当に多くの根強いファンがいらっしゃるって、カープが25年ぶりに優勝した時は、スポーツに詳しくない私もファンの方々が喜ばれる様子にもらい泣きするぐらいうれしかったです。広島にはそうした熱い魂というか情が深い方が多いですね。広島には素晴らしい音楽家の方々、素晴らしい才能を持った若い世代の子たちがたくさ

広島出身の世界に誇るピアニスト 萩原 麻未

安佐南区出身。5歳からピアノを始め、平成12年、第27回パルマドーロ国際コンクールにおいて史上最年少の13歳で第1位となる。広島音楽高等学校卒業後、フランスに留学。平成22年、第65回ジュネーヴ国際コンクールピアノ部門において日本人として初めて優勝。平成23年、広島市民賞、ひろしまフェニックス賞特別賞受賞。



NHK交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団をはじめとする国内外の主要オーケストラと共演。現在は東京を拠点として、国内外でソリスト、室内楽奏者として演奏活動を行う。昨年(2020)の8月5日、6日の「平和の夕べ」コンサートで、被爆ピアノを題材とした藤倉大作曲のピアノ協奏曲「Akiko's Piano」を広島交響楽団とともに世界初演。独奏部分で実際に被爆ピアノを演奏するなど、音楽を通じて広島と関わり続けている。

んいらっしゃいます。私自身も高校まで広島で育ってきて、温かいお客様に囲まれて成長できたことは、かけがえのない宝物です。スポーツだけでなく、音楽でも今後もっともっとそうした輪が広がったらいいなと思います。

市長 スポーツは、体を動かすことが健康維持に役立ち、その行為も楽しいことを実感している人が多いから、ファンも多いのだと思います。音楽も、その楽しさと良さが実感できれば、必ずファンは増えます。分かってくれる人を増やす。そのためにも良いものを提供して良さを実感できる、そういうまちにしたいですね。

萩原 草木も生えないといわれる状況から、こんなに復活して緑にあふれ、人々の活気あふれるまちになって、当時の方々がどれだけ努力してここまでしてくださったかと思うと、本当に胸がいっぱいになります。そうした経験をしている広島のみちというのはとても強いだろうし、広島の人はこのまちをもっと良くしていこうという気持ちが一歩強いと思うので、私もその中の一人として何か貢献できることがあればいつでもさせていただきたい

と思っています。

市長 市では、国際平和文化都市の柱の一つとして、「花と緑と音楽の広島づくり」を掲げています。緑、花を大事にすることは平和なたたずまいを見せる都市には不可欠だと思うんですね。自然を壊し過ぎてしまうとまちが持続しないというのは明らかで、そのことに、広島の前先輩は気付いていて、復興期に供木運動をやってますよね。周りが緑に囲まれていることで安心感が保てる。いいまちだなと思えるじゃないですか。目から緑が入る、そこにもう一つ、音楽が耳から入ってくるということが、いとも簡単にできるまちを目指したい。だから花、緑を大切にしようというファンを増やす。音楽についてもそれを愛でる人、音楽のファンになる人をもっともっと増やさないといけない。萩原さんのような優れた方の力によって、もっともっと多くの方が、これが本物のピアノ演奏ですよというのを知り、身近なものとして感じられるようになれば音楽のファンも増えると思います。「花と緑と音楽の広島づくり」、一緒に頑張っていきたいと思います。



昨年8月6日の「平和の夕べ」コンサート

萩原麻未さんのサイン色紙をプレゼント

【応募方法】はがきに、住所、氏名、年齢、性別、電話番号、本紙へのご意見・ご感想、来年の新春市長対談に取り上げてほしいテーマ、「サイン色紙希望」と必ず記入の上、1月14日(木)(必着)までに、市役所広報課(〒730-8586 住所不要)へ。ファクス(☎504-2067)または市HP「広報紙『ひろしま市民と市政』」からも応募可(応募は1人1通)。抽選3人 ※当選者(市内在住)の発表は発送をもって代えさせていただきます(1月下旬発送予定)。個人情報(賞品の発送と読者層の調査)に利用します

